

パブリックコメント集約意見及び市の考え方

| 【意見区分】 | |
|------------------------|----|
| A:ご意見を受けて加筆・修正したもの | 1件 |
| B:ご意見の考え方が現行案に含まれていたもの | 1件 |
| C:現行案とおりのしたもの | 1件 |
| D:案に関連する質問など | 1件 |

| 番号 | 意見者 | 計画案の該当箇所 | ご意見の概要(基本は原文どおり) | 市の考え方 | 計画への反映 | 意見区分 |
|----|-----|---|--|--|---|------|
| 1 | ① | 2 第3次推進計画における成果と課題 (2) 主な課題(令和元年度末現在) ③その他 本編6ページ | 安城市には日本語を母語としない子どもが年々ふえています。その子たちへの事業も考えた文言があるといいと思います。基本方針の中にはありません。 1. (2)⑥ 2. (4)⑭ | ご指摘の通り、課題に対応する文言を追記することとします。 | 左記の市の考え方に基づき、本編6ページ「第2章 第3次推進計画における成果と課題(2)主な課題(令和元年度末現在)③その他」、概要版「2 第3次推進計画期間(平成28年度～令和2年度)における成果と課題(3)主な課題」に文言を追加します。 | A |
| 2 | ② | 第2章 第4次推進計画の基本方針 1 基本理念 本編7ページ | 背景、目的については、以下の引用があるが、「子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年法律第154号)」では、子供の読書活動について、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」としています。 「すべての子供たちに届けたい・・・本は未来への道しるべ」というサブタイトルに対して、安城市がどんな思いで、子供達に本と共に育ててほしいのかが、明記されていないので是非書いてほしい。教育機関との連携もあるなか、現代の読書離れによりどんな影響、思考の癖があるのか、大人にも、子供を持たない納税者にも理解が得られるような記載が欲しい。 学校でのとりくみ 読書が子供の教育や成長にどんな影響をあたえ 本離れが成長や考え方に影響をあたえるか など | 基本理念の考え方については、まず本編「はじめに」の中で「子供たちの豊かな成長のために、家庭、地域、図書館、学校等が相互に連携を図りながら、子供たちの読書意欲を喚起し、全ての子供が自主的に読書活動を行うことができる社会環境を整備する必要があります。特に、言葉で成立している「本」は、読書習慣をつけることにより、語彙力や共感力を育み、子供たちのコミュニケーション能力の向上に果たす役割が大いに期待できると考えます。」の中で読書習慣を身に付ける重要性を記載しております。 また、 本編7ページ 第2章 第4次推進計画の基本方針 1 基本理念の中で安城市の考え方を記載しています。 | ご指摘の件は、左記の市の考え方に基づき、計画の内容は従前のままとさせていただきます。 | C |
| 3 | ② | 第3章 第4次推進計画における具体的施策 基本方針1:家庭、図書館、学校等における読書活動の推進 施策(2)図書館等(図書情報館・公民館図書室・あんぱ〜く・KEYPORT・あんステップ♪)における読書活動の推進 ④小学生を対象とした事業の充実 本編13ページ | 子供の本離れが決定的になるのは小学校6年までの間に、生活に「読書」があるのか、ないのかだと思う。 ④の事業のような低学年向けの活動に加えて、より文字に親しみ、好きの個性が明確になり始める中高学年を対象にした事業を充実させていただきたい。 本を選ぶ楽しさは、本に慣れ親しむ入り口だ。 大人が、手軽なスマホ検索、動画の刺激、難解さより分かり易さの選択をしている環境で子供に言っても説得力がない。 けれど、大事なのは、子供時代の「本」との出会いがその人の人生を豊かにするような思考の土台を築けるということ。 様々な取り組みに加えて ・文学書だけでなく、生物＝魚や生物を紹介するイベント 城＝三河にも多く残る史跡と本、小学生がもっと知りたく と思えるような種をまけるようなしくみ。 ・学校の枠との連携もいいが、趣味嗜好によりリレーションシップができるしくみがあれば、世界が広がる。 ・屋外に視察にいけるようなイベント ・コロナでイベントが出来ない場合には、テーマ別のスタンプラリー 目的を持って読む場合もあるが、今をリセットして別世界へ身を置いたり、古代から現代の偉人や市井の人(その時代を生きた一般庶民)、いろんな声を聞くことができる本。各家庭で、大人が読書する光景が当たり前にあることが、子供にもいい影響となるはず。 | いただいたご意見を参考に、今後も子供が読書への関心を高めるような取り組みを進めてまいります。 | — | D |